

“地盤問題”を解決して住みよいまちづくり

環境地盤研究室 鎌尾 彰司 准教授

Shoji Kamao | Associate Professor

1966年生まれ 千葉県出身
 日本大学理工学部土木工学科卒業
 日本大学大学院理工学研究科土木工学専攻博士前期課程修了
 デルフト地盤研究所（オランダ）客員研究員（2007-2008）

専門 | 地盤工学

受賞 | 日本大学理工学部学術賞（2008）



私たちの暮らしを支える各種構造物は地盤上に建設されており、この地盤が軟弱であると構造物が沈下をしたり傾斜をしたりするなどの被害が発生します。長期にわたり発生する軟弱地盤の残留沈下の予測手法や対策技術等を長年にわたり研究されてきた鎌尾准教授に、構造物を支える地盤に発生する問題について話を伺いました。

Q:「地盤問題」とはどのような問題を指すのでしょうか？

A:古くは、ご存じ「ピサの斜塔」があります。12～14世紀の約200年かけて建設された構造物で、世界遺産にも登録されており観光客で賑わっています。ピサの斜塔の地盤問題は、不均質な軟弱な粘土地盤の沈下によるものであることが20世紀に入ってからの地盤調査で判明しています。そして、今日までに倒壊しない（させない）ための対策が色々と施されています。また、最近の地盤問題では、2011年に発生した東日本大震災で、関東地区の沿岸域や内陸部の埋立地を襲った「液状化」があります。さらに2016年に発生した熊本地震においても「地すべり」や「液状化」など地盤に大きな被害が生じました。博多駅前のトンネルの陥没も記憶に新しいところだと思います。我々地盤技術者は、さまざまな地盤問題を解決して、人々が安心して暮らせる街づくりをしていく使命を持っているのです。



ピサの斜塔にも地盤問題が・・・

Q:研究室名に「環境」が付いているのはどうしてですか？

A:これまでの地盤問題は、構造物の建設時に発生する沈下や変形に関する諸問題がほとんどでしたが、近年は環境に関する話題が多くなってきています。土や地下水の汚染、建設工事に伴う周辺環境への影響、地球温暖化に伴う地盤災害の多発化、廃棄物の処理・処分など、地盤に関する環境問題がいろいろと発生しており、これらも地盤技術者が解決する必要があるため「環境地盤」と名付けました。



東日本大震災によるJR舞浜駅の液状化被害

Q:「地盤探偵団」とは何ですか？

A:「地盤探偵団」では、先にお答えしたような様々な地盤に関する諸問題を調査してホームページで報告しています。ぜひご覧いただき、我々が日々暮らす「地盤」に興味を持っていただきたいと思います。そして人々が安心して暮らせるように、地盤問題を一緒に解決していきましょう！

<http://133.43.106.35/~kamao/tantei.html>



熊本地震による地すべり被害